



家庭科の学習の大切さ

小学校の学習指導要領における「家庭科」は、単に料理や裁縫の技術を学ぶだけの教科ではありません。激変するこれからの社会を生き抜く子どもたちにとって、「自立の基盤を育てる最重要教科の一つ」へと進化しています。学習指導要領の目指す方向性と、これからの教育における家庭科の大切さについて整理しました。

1 現行の学習指導要領が目指す「家庭科」の役割

現在の学習指導要領では、すべての教科において「資質・能力の3つの柱」を重視しています。家庭科ではこれを以下のように具体化しています。**知識及び技能**：家族や家庭生活、食育、衣食住、消費や環境など、生活に必要な基礎知識と技能（調理、裁縫など）を身に付ける。**思考力、判断力、表現力等**：自分の生活から「問題」を見つけ、どうすればより良く改善できるかを考え、実践する力を育てる。**学びに向かう力、人間性等**：家族や地域の人々と協働し、環境に配慮しながら、主体的に生活を創り出そうとする態度を養う。家庭科の最大の特徴は、「学んだその日から、自分の生活に直接活かせる」という即効性と実践性にあります。

2 これからの教育で「家庭科」が特に大切な4つの理由

AIの普及や多様化が進む「これからの時代」だからこそ、家庭科の重要性が叫ばれています。

①**予測困難な時代を生き抜く「生活自立」の土台**：これからは、個人の幸せや心身の健康を自分自身でマネジメントする力が求められます。バランスの良い食事を自分で用意できること、快適な住環境を整えられること、衣服を適切に管理できること。これらはすべて、社会変動に振り回されずに自分らしく自立して生きるための強力なスキルになります。

②**デジタル社会における「リアルな体験（五感の育成）」**：画面の中での学習が増えるこれからの教育において、家庭科は「五感をフルに使う貴重な時間」です。包丁で食材を切る音、出汁の香り、針と糸を操る指先の感覚など、体験を通して脳を刺激し、問題解決能力をリアルな世界で育みます。

③**SDGsを日常から実践する力**：環境への配慮やエシカル消費（倫理的消費）は、教科書上の知識だけでは身に付きません。家庭科の授業を通じて、「食品ロスを減らす調理法」「服を長く大切に着る工夫」「ゴミを減らす買い物」などを学ぶことで、持続可能な社会の担い手としての当事者意識が自然と育まれます。

④**協働性と多様な家族観の育成**：家庭科では、グループでの調理実習などを通じて、お互いに役割を分担し、助け合う協働性を学びます。また、ジェンダーにとらわれない視点や、多様な家庭のあり方を認め合う姿勢も、これからの多文化共生社会において欠かせない要素です。

3 これからの家庭科教育のキーワード

今後、学校や家庭でさらに意識されるべきポイントです。キーワードこれからの家庭科でのアプローチ自立と共生男子・女子に関わらず、すべての人が生活者として自立し、共に支え合う力を育てる。探究的な学び「なぜ朝食が必要なのか?」「このマークの意味は?」と問いを持たせ、生活を科学的に見つめ直す。家庭・地域との連携学校での学びを家庭に持ち帰り、実践することで、親子のコミュニケーションや家庭での役割分担を促す。まとめこれからの教育における家庭科は、「家事の手伝いができるようになるため」のものではありません。「自分の生活を自分の手で心地よくコントロールし、社会とつながる力を育てる」ための、人生の土台となる教育です。

未来を生き抜く力を育む「新・家庭科」：自立とウェルビーイングの土台

現代の家庭科は、調理や裁縫の技術習得にとどまらず、SDGsの実践やウェルビーイングの向上、デジタル社会におけるリアルな体験提供など、社会の変化に対応した「生き生きる力」を養う最重要教科へと進化しています。

これからの時代に家庭科が重要な3つの理由

家庭科が育む「3つの資質・能力」

